

★新鶴見小学校★

順調に育った「こんにやく芋」は、スクー、パートナーの皆様のご協力を得ながら、7組の子どもたちが美味しいこんにやくにしました。歯ごたえや味も申し分ないこんにやくに仕上がりました。こんにやく芋は玄関にしばらく展示しますのでどうぞご覧ください。また、地域の皆様をお招きして「ふれあい給食」を実施しました。教育目標の「つながる」を具現化する大切な学校行事です。お客様をお迎えする準備をしたり、一緒にレクや歌を楽しんだり、お話をしながら給食をとったりと良い経験をさせていただきました。町会長をはじめ地域の皆様のご協力に感謝申し上げます。さらに新鶴見文化祭では、ゲームや催し物で楽しい経験をしたり、おいしい「新鶴見なべ」に舌鼓を打ったりと充実した時間を過ごさせていただきました。多くの皆様に子供たちの健全な育成に関わっていただいていることを改め感謝いたします。ありがとうございます。

新鶴見小学校長 濱田 哲也

★新鶴見小 コミュニティハウス★

前회가8月の発行。それから4ヶ月色々な事がありました。大きな台風が二度も直撃。コミハも臨時休館というなかなかできない体験を致しました。そして何よりも行事が目白押しでした。

「史季の郷」と共催のさんまフェスティバル。若いお父さんが汗だくでさんまを焼いていました300尾!! 裏方さんに拍手です。そして新鶴見文化祭。町内会をはじめ地域の皆さん、学校の先生、保護者、しんつるサポーターの方々と共に作り上げた2日間は貴重な体験となりました。ありがとうございました。12月にはクリスマスコンサートも開催。とても寒いという予報でしたが、大勢の親子で会場は盛り上がり、みんなで歌い、サンタさんからプレゼントをもらいました。これから冬本番、散歩のついでに、お買い物の途中にコミハでお身体を温めてください。おまちしています。

新鶴見小コミュニティハウス館長 川田 恵利

★新鶴見ホーム★

10月27日の新鶴見ホーム秋祭りは、お子様がたが屋外ステージの演奏や演技、飲食ブース、ゲームコーナー等を楽しまれているお姿を拝見し、とても嬉しい一日でした。江ヶ崎町内会、江ヶ崎地区社協、ボランティア、事業所の皆様のご協力のお陰で、事故もなく、安全に、盛況のうちに無事終えることができました。心から感謝申し上げます。

今年は9月、10月と関東地方直撃の台風が続きました。特に台風19号では、江ヶ崎町に警戒レベル4が発令され、当ホームでは新館1階のお客様に2階・3階へ垂直避難していただきました。引き続き防災意識を持って、しっかり取り組んでいきたいと思っております。新しい年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

新鶴見ホーム所長 森 崇

★新鶴見公園★

この秋は台風に泣かされました。公園の樹木が折れ大変でした。安全・安心・清潔で遊んでいただくこと事を目指し、清掃や花壇の手入れを頑張っています。公園で遊ぶ子供たちのためにも、ごみは各自持ち帰りに協力をお願いいたします。毎月第2・第4日曜日の午前中に公園の草刈り・清掃を行っています。ボランティア活動のできる方のご協力をお願いします。

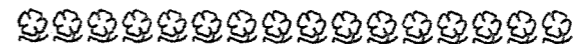
新鶴見公園愛護会 菊池 武徳

編集後記

2019年も押し詰まってまいりました。予定の行事が無事開催できましたこと、お礼申し上げます。来年2月1日(土)には若いお父さんのための「パパの子育て講座」を開催いたします。沢山の参加をお待ちしています。



結いしんぶん



社会福祉協議会ってどんな組織?

社会福祉協議会(以下、社協)は、社会福祉法に基づき都道府県・市町村に設置されたえがは
 “地域福祉の推進”を目的とした団体です。

全国社協 1か所

全国の福祉関係者や福祉施設等事業者の連絡・調整、社会福祉のさまざまな制度改善に向けた取り組み、社会福祉に関する図書・雑誌の刊行、福祉に関わる人材の養成・研修 など

指定都市社協 20か所

市内の区社協と連携を図りつつ、都道府県社協に準じた活動を行っています。

都道府県社協 47か所

市区町村社協と連携した事業の実施、福祉サービスに関する苦情の相談受付、生活福祉資金貸付、福祉関係者に対する専門的な研修事業の実施、市区町村社協のボランティアセンターとの連携によるボランティア活動の振興、災害時の災害時ボランティアセンター立ち上げ、小中高校における福祉教育の推進、「福祉人材センター」における福祉の仕事に関する求人・求職情報の提供 など

市区町村社協 1,846か所

多様な福祉ニーズに応えるために地域の特性を踏まえた独自の事業をおこなっています。また、地域のボランティアと協力し、居場所づくりや日常生活支援を進めているほか、ボランティア活動に関する相談や活動先の紹介、福祉教育の支援等、地域の福祉活動の拠点としての役割を果たしています。地域のさまざまな社会資源とのネットワークを有しており、多くの人びととの協働を通じて活動しています。

地区社協

その地区の福祉活動者や福祉施設などで構成された任意団体です。地域住民に最も身近な社協として活動しています。

<江ヶ崎地区社協の事業>

- 子育て支援
赤ちゃん会、子育て広場
- 高齢者支援
昼食会、ゆうゆうサロン、サロン・サルビア、ゆうゆうサロン 料理教室、日帰りバス旅行
- 広報
「結いしんぶん」発行
- 講座
障害理解講座、認知症サポーター養成講座
- ボランティア
施設へのボランティア派遣、お祭りでの模擬店出店 など

<鶴見区社協の事業>

- ・地区社協支援 ・ボランティアセンター
- ・福祉教育 ・善意銀行(寄付の受付等)
- ・助成金等による団体支援
- ・福祉保健活動拠点運営 ・移動情報センター
- ・送迎サービス ・あんしんセンター
- ・広報紙の発行 ・生活福祉資金貸付
- ・福祉関係団体事務局(共同募金、日本赤十字等) など

「第25回 新鶴見文化祭」お礼

新鶴見小コミュニティハウス 川田 恵利

11月23日(土・祝)・24日(日)の両日開催いたしました「新鶴見文化祭」、雨にも負けず、風にも負けず、盛大に行うことができました。前日の準備も大雨のなか、机を運んだり、ゲートを設営したりと町内会の皆さんが合羽を着て大奮闘していらっしゃいました。誰一人として、開催を危ぶんでいないところが、凄い！というか頼もしかったです。

ここ何年かも、雨が降らなかったことがない、とのことで、異動してきた私が原因かしら？とちょっと頭をよぎったのですが、24日は晴れ間も出て、安堵いたしました。

模擬店、作品展、ステージ発表と、地域と一体となつてのコミハ行事ですが、コミハの力なんぞ、ほんの僅か、9割以上が江ヶ崎町内会・矢向一丁目町内会の方々のご尽力です。本当にありがとうございました。

小さなお子さんからご年配の方々まで楽しんで頂けましたし、何事もなく無事お片付けまで終了いたしました。これもひとえに皆様のご協力があつてこそと感謝しております。この場をお借りして致しまして、お礼の言葉とさせていただきます。

「民生委員・児童委員」が改選されました

民生委員・児童委員は、3年に1度、全国一斉に改選されます。

ことし(令和元年)は一斉改選の年にあたり、江ヶ崎地区では、次の5名の方々が、12月1日付けで、厚生労働大臣の委嘱を受け、その任に就かれました。

任期は令和元年12月1日から令和4年11月30日までです。

No.	担当地区	担当地域	民生委員		
1	江ヶ崎町東	江ヶ崎町 11~2 (16-17 クレストシティアクアグランデ除く)	鈴木 精一	再	
2	江ヶ崎町南	江ヶ崎町 1~9 (8~63 クレストグランディオ横浜除く)	時田 清隆	新	
3	江ヶ崎町西	江ヶ崎町 10、23~26	松田 文子	再	
4	江ヶ崎町 サルビア	江ヶ崎町 8-63 (クレストグランディオ横浜)	神保 薫	新	
5	江ヶ崎町 クレストシティ アクアグランデ	江ヶ崎町 16-17 (クレストシティアクアグランデ)	篠窪 進	再	

◆◆◆ 2019年度 鶴見区社協 賛助会費のご報告 ◆◆◆

	件数	会費納入額	会費納入金額	還元額(55%)
個人賛助会員	275件	315,000円		
法人賛助会員	34社	205,000円	520,000円	285,000円

(令和元年12月1日現在)

〈地域包括支援センターより〉

「元気だからこそ、楽しく終活」備えて安心特集

最近よく聞く「終活」という言葉ですが、これから年齢を重ねていく準備はどんな気持ちで取り組めば良いでしょうか？また、何を準備すれば良いでしょうか？

〈まずは準備する時の気持ち〉

自分の老いや最期を想像してさみしい気持ちになるのではなく、これまで自分がどんな人生を歩んできたか懐かしく振り返り、今は何を大事にしている、今後は何をしようか想像しながら、明るく前向きな気持ちで準備していけると良いようです☆

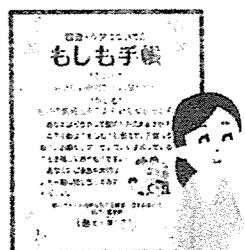
〈大事なこと、ご自身の想いを形にしていますか？〉

なかなか日頃は言えないけれど、ご家族や関係者に伝えたいこと、書き残したいこと。独り身だからこそ伝えたいこと、書き残しておきたいこと。言われてみれば思い当たることはあると思いますが「それを形にしているか？」となると、していない方がほとんどだと思います。

〈準備に便利な手帳やノート〉

もしも手帳

病気やケガで、自分の気持ちを伝えられなくなった時のために、治療やケアについて簡単なメモを書き残せる手帳です。



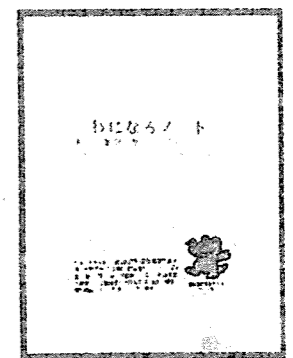
わになるノート(鶴見区版エンディングノート)

☆令和元年改訂バージョン☆

丁寧に自分のことを振り返り、今後に向けての想いや日々の生活に重要なことが書けるノートです。鶴見区の旧バージョンで、シンプルに書ける項目の少ないエンディングノートもあります。

【ノートの項目】

- ① わたし自身のこと
- ② もし介護が必要になったら
- ③ 財産について
- ④ 医療・終末期について
- ⑤ 相続・遺言について
- ⑥ 葬儀・お墓について



※ただし、これを読んだご家族や関係者の方が嫌な気持ちになったり、揉め事の原因になることもあるので書かない方が良い場合もあります。ご注意ください！

〈この手帳やノートのもらえる場所〉

鶴見区役所や矢向地域ケアプラザにありますので、ぜひお気軽にお問い合わせください！

矢向地域ケアプラザ 地域包括支援センター 045-573-0020

新鶴見ホーム・園芸ボランティアについて

鴨志田 正晴

新鶴見ホームは平成12年5月、横浜市では最も大規模な特別養護老人ホームとして開所しました。

開所から2ヶ月過ぎた夏、庭の草取りや、簡単な樹木の手入れなどを、地域で協力していただきたい、それに加えて「ホームの隣地」を農園として開墾し、入所者のみなさんに土の感触を味わってもらいたい、季節の野菜や花を栽培する楽しみを生活の中に取り入れてあげたいので、協力いただけないかなどの要請がありました。

「ホームの隣地」とは、当時横浜市が「道路予定地」と指定した土地で、道路が出来るまでの期間、ホームで使用させてもらおうとのことなので、開墾し畑とすることにしました。

町内会長とも協議した結果、社協が中心となってボランティアを募ることになり、30名の方が手を挙げてくれました。

コンクリートの大きな瓦礫や地中に埋まった枕木などを取り除き、雑草を抜きとり、耕運機を動かしての作業から、お互いにより親しい関係が生まれました。

こうして平成13年4月、農園は完成、「新鶴見ホーム・園芸ボランティア」が誕生しました。

農園は、ホームの1階から5階の各階に振り分けられ、それぞれで思い思いの作物や花を栽培しました。堆肥や有機肥料により、肥沃な畑に献身し、各階でトマト、胡瓜などの果菜類、ジャガイモやサツマイモ、小玉スイカなど見事な野菜の収穫を楽しむことが出来ました。

作業日は、原則毎月第一土曜日の午後3時からとしたものの、天候や作物の生育具合によって変更になることもしばしばありました。農作業などを通じボランティアと職員さんとの交流はもちろんお互いの交流もできて、お互いの理解が深められました。



開所から5年目の平成17年、地域から記念植樹を寄贈しようとの話が持ち上がり、江ヶ崎町内有志60数名の賛同をいただき「くすのき」と「横浜緋さくら」「染井吉野」の植樹も行なわれました。

農園の開園から10年を経過した平成23年、道路予定地であった農園は、ホームの増設予定地となり、閉鎖することになりました。やっと軌道にのり始めた農園を何とか続けたいとの思いで、新鶴見公園近くに残土や瓦礫が山積みされた荒地を開墾、整地を行ない農園として完成させました。

1年余り利用しましたが、

- ①農園がホームから距離があること
- ②入居者が高齢になり、参加が出来にくくなったこと
- ③職員も入居者を離れた農園まで付き添う往復の時間が取れなくなったことなどに鑑み、新鶴見ホームとしての農園は当分の間見合わせる事となり、現在は、園芸ボランティアのメンバーで、自らの健康維持、介護予防農園として活用しています。

江ヶ崎の人

おおつか かずこ 大塚 和子 さん



プロフィール

生まれ：昭和19年(1944)2月27日 満75歳 申(さる)年
青森県弘前市富野町

8人兄弟(四男四女)5番目で三女

趣味：若い頃は—

ボウリング(マイボールで投げていました)

カラオケ(主人と蒲田の方まで行きました)

フラダンス(気に入った衣装をそろえました)

今は— 手芸・折り紙・お花など

嗜好：好きな食べもの トマト

嫌いな食べもの ありません

—ふるさとは、青森県弘前市です

ふるさとは、青森県の西部(津軽地方)の中心地弘前市です。青森は、全国有数の農業県ですが、わが家は普通のサラリーマン家庭でした。兄弟8人は、みなお勤めで、農業に関わる人はいません。

生まれ育った実家のある富野町は、JR弘前駅に近い市街地で、県道をはさんだ東側一帯は、弘前大学でした。幼い頃その構内に、よく遊びに行きました。地方都市の都会っ子育てという感じです。

私は10代半ばでふるさとを離れましたし、その後、兄弟たちもみな上京しましたので、ふるさと弘前は、遠くから想う存在となりました。

—こどものころの思い出

こどものころは、ホントに目立たない子でした。得意なことと云えば、かけっこです。かけっこは誰にも負けませんでした。好きな教科は社会科、算数はもう大嫌いでしたね。今でも大の苦手です。

中学の部活動は、バレーボール部でした。

弘前と云えば、東北の短い夏を楽しむねぶた祭りです。ねぶた・ねぶたは、青森、弘前だけじゃなく、県下のあちこちどこでもあるのです。

私も跳人(はねと)で参加したことがあります。鈴を沢山つけて片足で2回ずつピョンピョンと飛び跳ねるのです。楽しくて貴重な思い出としよく覚えていています。

—昭和36年、上京して大崎へ

中学を終えて1年後の昭和36年、品川区大崎にいた、直ぐ上の兄を頼って上京しました。

同じころ 主人(昭和19年新潟生まれ)も、兄を頼って上京していました。

主人も私も、高度成長期の「集団就職世代」であり、大井町の電球をつくる工場で働く同僚でした。この頃は、所得倍増計画が始まったばかりで、金の卵と云われ、ホントに仕事が忙しくて、おちおちデートする暇などありませんでした。

主人は、よく仕事をする人で、私の方が、半年ほど年上ですが、頼りがいのあるひとでした。

昭和41年に結婚、主人も私は同じ23歳でした。

—江ヶ崎には来たのは、昭和44年

結婚して3年後の昭和44年、江ヶ崎の現在地(ばら地区)に来ました。主人の兄さんが、骨を折ってくれて、主人の溶接業のための工場が付いた住宅

を建ててくれたのです。1階が作業場、2階が住居でした。この頃はまだ周りは田畑が多く、家が建ったのは早い方だったようです。

地方出身の主人は、当時は「地域の仕事は男がやるもの」が持論でした。

主人はもともとスポーツへの関心が強く、町内の少年野球などで、会場までの車を用意したりするうち、町内会の役員を引き受けるようになりました。

息子ふたりは、剣道に打ち込みました。中学時代によき指導者に恵まれ、高校に進むと、兄は国体(国民体育大会) 弟は東日本大会などに出場するほどの腕前となりました。

地域のみなさんが、大会出場の日行会を開いてくれたことを懐かしく思い出します。

平成6年、主人が入っていた「いちりんの会」でボランティア活動を始めました。はじめてのボランティアは今もつづく「お一人暮らしの食事会」でした。

その後「ゆうゆうサロン」「子育て広場」や新鶴見ホームの「喫茶」「園芸」スクールパートナーの「園芸」など、いくつものボランティアに係わってきました。ボランティアは人様のためだけでなく、私にとっても勉強になっていることだと感じています。

主人は、平成15年58歳で亡くなりました。家族思いの頼れる人でした。

主人の死は大変なショックでした。夫の死を乗り越えられたのは、地域の皆さんの支えがあり心から感謝しております。

インタビューを終えて

「ご主人 勝治さん(平成15年逝去、享年59)は、地域の行事や活動に積極的に参加され、会計など町内会役員も務められました。

夫唱婦隨の和子さんも、地域を大切にすご主人の意を継いで、いつもお元気で、熱心に地域ボランティア活動に取り組まれています。」